

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	中野区療育センターゆめなりあ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月15日		～ 令和7年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	97	(回答者数) 52
○従業者評価実施期間	令和6年12月15日		～ 令和7年1月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	区立施設として行政や関係機関との連携の基盤があること。また多機能(児童発達支援・保育所等訪問支援・相談支援・療育相談)事業所のため、事業所内でも多職種で様々な連携の形が取れること	会議だけに捉われずに随時担当職員間で情報共有を行っている。また必要に応じて専門職による助言を受ける機会を設けることができる。	必要に応じて心理・ST・OT・PTと専門職種による評価や、嘱託医による医療相談など、より充実した多職種が協働していける仕組みづくり。
2	放課後等デイサービスの専有スペースが広く、また施設内で他事業と共有で使えるスペース、カームダウンルームなど、使用できる部屋やスペースが多い。また身体を動かして遊べる遊具なども充実している。	利用児の特性に応じた好きな遊びを活動として提供する。好きな遊びを通して、順番や、時間の見通し、行動の切替や遊ぶ際のルールなど、利用児に応じたねらいをもって活動を提供している。	遊びや支援のアイデアは法人内の事業所とも共有していく。また研修などを活かして、より良い遊びのアイデア、経験を職員も積み重ねていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常勤職員を含めて研修内容やマニュアルなどの情報共有	出勤日数が少ない職員も多く、すべての情報を勤務時間内に確認することが難しい。	導入したJmottoなどICTツールも活用し、より様々な方法で情報が共有していける仕組み作り
2	保護者向けの学習会や交流会など、保護者支援として取り組みが弱い。	登録している利用児も学齢や発達など非常に幅広い方がおり、興味、関心のある分野の幅が広いと感じる。	改めて保護者のニーズを聞き取る機会を設定する。その上で、必要な学習会や、おたよりの作成など事業所の持つ専門性を活かして計画的に取り組んでいく。
3	保護者の方へ普段の活動内容などの共有、施設内の様子などを十分に伝えることができていない。	見学期間を定めるなど、積極的に保護者参加を促していなかった。また送迎利用の場合は職員が直接保護者と会う機会が少なく、手書きの連絡帳のみで伝えることに限りがあった。	コドモンなどツールを活用して写真の共有など、積極的に情報を発信していく。写真撮影、使用についての承諾など確認しながら、保護者の方がより確認しやすい方法を検討していく。